



萌木

5月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和8年5月22日発行

「らしさ」を求めて

校長 山田 勝

5月も振り返れば半分以上が過ぎ、七中でもいよいよ今週末に迫った体育祭に向けての練習や準備が進んでいます。同じ目標の達成に向けてクラスで気持ちをぶつけながら、取り組みにも熱が入ってきました。

運動、体を動かすことが得意な人もそうでない人も、自分の一生懸命を持ち寄って力を合わせ形となった時の達成感を得る経験の場にしてほしいと願っています。それぞれの力をより発揮しやすい環境に整えることができるクラスは、力の合成力の方向もそろって、より大きな力を発揮することができます。気持ちのベクトルをそろえる、その気持ちをもって本番にも臨んでほしいと思います。



体育祭では毎年、生徒たちがクラスでまとまって一生懸命に取り組む姿に感動をもらえる場面がたくさんあります。その姿こそが「中学生らしさ」なのかもしれません。相手へのリスペクトなく余力を持て余した姿勢での競技姿勢であったとしたらそこまでの感動を覚えないかもしれません。そのような多数の感覚から「中学生らしさ」を曖昧に定義づけているところがあると感じます。

現在、多様な生き方をお互いの理解の中で認めていこうという社会に変わっている過渡期であると思われます。「自分らしさ」とは何かを常に考え追い求めることが大切なことで、その上で「らしく」ある、ということを考えるためには基準があるほうが見つけやすいです。

七中の生活の決まりには、「中学生らしく」ということを目安として示していますが、「らしさ」を考え、他者の見解を受け入れる姿勢を持つことは成長の過程である中学生には必要なことです。「自分らしさ」を固めるためには、必要なことと真剣に向き合って考えることで更なる成長につながっていきます。

「自分は何者か」、「何を目指すのか」、は人生の中でも各人が抱える大きなテーマで、そのテーマの答えを探すために私たちは学んでいるといっても過言ではありません。その答えに近づく一歩として、「自分らしさ」を探す、見極めることは重要な手立てとなります。

「中学生らしく」という表現にもどかしさを感じつつ、体育祭での生徒の姿にその答えを探しつつ「自分らしさ」をはっきり見定めようと日々の成長を送る七中生を見守りながら、自分事としても考える姿を示すことも大切と自らも取り組み続けます。